

鷹島の温泉優待券を 福島温泉でも使用可能に

鷹島モンゴル村「モンゴル温泉草原の湯」の温泉の優待券（70歳以上の市民と障がい者に発行）。平成22年度の申請者は267名で、



つばき荘（市報6月号より）

のべ利用者は1337名。安江ゆづり市議は、鷹島温泉の優待券が「つばき荘（福島温泉）でも使用できるように」と質問しました。

市長 午前中の山口議員の質問にも答えましたように、つばき荘の支配人とよく協議して、いつとは申しませんが、早い時期に福島温泉も利用いただけるような形にしていきたい。気持ちとしてはできるだけ早い時期に。

昨年12月市議会で質問した国保の資格証明書。資格証明書のウツに書いてある注意事項の4「災害・盗難など特別な事情が生じた…」に、「病気、ケガ」も入れよと要求した安江ゆづり市議。

国保・資格証明書… 病気やケガでも保険証発行

「災害・盗難のほか病気、負傷などの特別な事情が生じた…」と、なりました。

資格証明書交付者が病気やケガをしたとき、すぐに市役所・健康ほけん課に申し出ると、短期保険証が発行されることになりました。

日本共産党は、「原発からのすみやかな撤退、自然エネルギーの本格的導入を」という提言を発表し、国民的討論と合意をよびかけています。

●原発事故は他の事故にはみられない「異質の危険」がある

原発事故がひとたび起

●今の原発技術は未完成

原子炉から核エネルギーを取り出すときに、莫大な放射性物質が死の灰が生み出されます。100万キロワットの原発では、1日に広島原爆の30個分、1年で1000個分の死の灰を生みだし、

●日本の自然エネルギーは原発の40倍

日本の自然エネルギーは、大きな可能性を持っています。現在の技術水準などふまえると、太陽光、中小水力、地熱、風力だけでも20億キロワット以上のエネルギーができると推定されています。これは原発54基の約40倍、日本の全発電供給能力の約10倍です。

原発からのすみやかな撤退、 自然エネルギーの本格的導入を

5年〜10年以内を目標に



安江市議も参加しました（右から2人目）

東京で開かれた原発ゼロをめざす7・2緊急行動(写真上・右)

その処理技術はありま

せん。

「死の灰」だらけの地球を後世に残してよいのでしょうか。今や、「原発の縮小・廃止」を求める声は、80%を越えています。

「脱原発を松浦市から発信することが一番」との鷹島・島民緊急集会での会場からの発言。

松浦市でも「原発からの撤退」の一点で、幅広い共同が求められています。